



10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 30 20 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

俳諧新十家類題集秋部

目錄

- 七月 立秋 一 初秋 七夕 星合 二 梶景
七夕鞠 天川 初月 三丁 盂月 孟蘭盆 魂祭
墓泰 灯籠 高燈籠 蓮飯 掃待 施餓鬼 四丁
中元 生身龜 刺鰆 踊 相撲 逆峯入 地
藏會 扇置 五丁 初嵐 秋風 六丁 露 七丁 霧 稲妻
九丁 蘭 十丁 女郎花 十一丁 菖蒲 十二丁 桔梗
鼠尾草 十三丁 紫苑 蓼花 十四丁 蕙薇仁 稻花 十五丁 薑椒
西瓜 一景 桐散 柳散 十六丁 木槿 常山花



虫 廿四丁 蜜 鈴虫 蜻蛚 十五丁 線絡 促織 蟪
稻虫 秋蠻 秋蠅 秋蟬 蝶 十六丁
八月 八朔 十六丁 稗岸 駒牽 三日月 月十七丁
秋月 待宵月 名月 廿一丁 雨月 十六夜 初夕
秋水 秋雨 廿二丁 秋日 秋雲 秋暮 秋父 廿三丁
秋夜 朝寒 夜寒 秋寒 暴風 草花 廿四丁 水
引花 龍膽 菖 廿七丁 蘭頭 芦花 薑蕉 芙蓉 八朔梅 秋
葛 廿七丁 落水 廿八丁 秋田 稻 田刈 落穂 粟 綿
野 落水 廿八丁 秋田 稻 田刈 落穂 粟 綿
取 芋 案山子 廿九丁 鳴子 鳴竽 初雞 鮀

初雁 雁 卅丁 燕歸 鶴 鶴鵠 四十雀 鳴
啄木鳥 卅二丁 喬吹 麋 麋笛 卅三丁
九月 重陽 菊 殘菊 三十丁 繼綿 三十一丁 后月 紅葉
卅六丁 草紅葉 草實 蒜苗花 天瓦 糸瓦 卅六丁 未
桔 卅七丁 松露 漆搔 秋山 楠 推 茶葉 卅八丁 枯
杞 複寶 磔 卅八丁 崩築 秋荼 露霜 秋霜
行秋 卅九丁 九月盡 四十丁

俳諧新十家顛顛集秋部

河内

俳諧堂未報

浪華 阿里園六轡

兩編

七月

立秋
又月也立秋之日新秋始升六

始立秋也本多言而少作此詩圖
也是秋顏也立秋之日行之而後樓堂
すくもあらかじんけを秋人
秋の日と人いふと小風也
士朗

初秋の月居を我よりしげを
高掛る秋の里里を江浦相
し翁は秋先うよやむ宿於達、蒼丸
人をう田中を立めけみれ
秋は早朝の月をそむかせ
まの秋は涼しくて打たれて
行ひとすまかけやし翁は秋
りせばあねむすむあけは秋
たゞりやねはれどもむきき成美

初
老すまゆるを秋はうけを
暮は翁何のう事も秋はうけを升六
秋事はう事は秋はうけ一翁居
老や秋は星なり説くまうり 成美
薄うも首出は秋は戸口のれ 樽堂
秋もくや眼はう事は秋はうけ 士朗
初秋
初秋と桔梗うけのく茶成美
初秋の在いふくふ秋はうけ、
初秋は川原をう事は小葉士朗

初秋や二日月升六
初秋廿日行紀あり萬葉筆、
初秋小川海濱光素之火葬、
初秋如毛と多く云ふ天川、

七夕星合

七夕や当多うるい我姫根 蒼丸
七夕とゆよてかひうる一宇、
七夕や秋もゆれと七夕説 完成
七夕おか事や三ノ子と桂枝繁 寄酒
七夕やまゆよ門はいと芒乙二

おもや星はまうか 美鷦 士朗
網ハシタシナリテリ 星はまう 五度
星はまうか 二ノ子とまうか
星はまう 葡はまうにまくろり し二
星はまうや星はまうむねまう
梶葉 七夕鞠

少女等はまくらめく梶葉 月居
梶一葉 うわくや絞りを雁流 釜丸
鞠はまうけ梶葉 一叶あらわ
月居

か義川せよ都 あま清川
う紀子 清もとくもと清川 成美
すち川 きよしきかわくら
日めぐら木 横井のくわい
さむらか領 くわいはあま清
すち川 義清ひがみよしのり
士朗

初月如月子
初月如鳥帽子
初月如弓耳
初月如之葉子
如小石原

山里やゆきの初月夜
士朗

益其日すりあつ 緒八
益其日すりあつ 升六
益其日すりあつ 嫁其日すりあつ 升六
一時や 朝見を 金其日
うるやけ十五夜、わづから 升六
魂祭墓奉
うそいもくひも死
玉參成英
桶
益其日すりあつ
益其日すりあつ
益其日すりあつ
益其日すりあつ
益其日すりあつ
益其日すりあつ

女あり川角力波ノ江暮奈 完末
灯籠 高燈籠

松竹梅小枝ノ灯籠和鳴鳥 斎淵
山川家ハ一ノ子よりニ灯籠ハ
灯籠は油ナリテ 櫻ノ節 士朗
高灯籠是手引目見於眼ばかり 成美
ひくうても寧めかのうて高灯籠 斎淵
高灯籠人情此事は運也勿 横堂
達飯 捕待 施餓鬼

世よ生ぬ後三やけで達飯 月居

折枝やいざな津モ花多川 升六
折枝や忽然の多とあは友 実末
何せ景れ吹きすらありせぬ事モヒニ

中元

けくまゆ元日といづれかすり 升六

生身龜 刺鰯

生身魂主をほらきし尼帽 月居
生身魂松竹一枚 ゆづまく新奇
うらみの新奇ありを壹二日
さす鰯もあしむるかの御

踊

空稿めねをもひだすと踊れ 升六
京中へとまわるよをもひ
松風やまかぬ通れに瘦せし川 寄聞

相撲

毛もくと筋もく出づり足角力 月居

達峯入地蔵會

峯入やと本ほとと秋葉紅 升六
地葉紅やと本ほとと秋葉紅、

扇置

初嵐

うづやみやくとまづくとまづく
手せきノ平さきとくや達峯 月居
三亥

秋風

初けいじねよきりひ日くふる 升六

まゆやまゆのまちの秋は風 章湯
持手すいあとつづく秋の風
立橋せしむすひと秋の風
秋風せしむのゆくと葉風
葉ふと葉ふと葉ふと秋の風 升六

秋風や海よりかゝる鐘のつとも
秋風や世故人らうえ驚く、
秋風や潮れども城門と櫓室
秋風はさへ海をかみ漁村が
うきゆきとまことに秋の風
豆とは人せ申すを秋の風
り海や大さく圓はまねつてめぐら
秋の風や大さく圓はまねつてめぐら
士朗
月居
まとうまきよと秋の風

白浪やまくよりかゝる秋の風 善丸
秋風は海よりかゝる秋の風
其浪平人せうども城門と
あく日ねちくからて秋の風
秋風や潮れども城門と
秋の風は海を吹き落と吹やま
染け戸へゆきもくと秋の風
人をかくすむらかまと秋の風
目せまく小鷦鷯とよほ秋の風
、 、 、 成美

山川はまくらん秋林、

露

朝つゆはあらじよ馬アシ、
城はむく花木本檣ハタケの草、
白さし平ヒラひづり行ハシや森の山、
小敵コウモンは傳授トランジすんづり家は雪ヤク、
やうすい立タチあめやへせ、
朝つゆや雪葉スノヒて家はづくま、
あらじや朝アサはせきとれ行ハシ、
夕はめやいじいもりよ筋スジせ孔ホラ、

因は睡スルのあらじよ馬アシ、
家は雪スノヒ、我是ワタシは又アフふ
山ふらう家はやうしつめ寄ハシメテ、
やく家はいつまつてあそぶ暮ハシメテ、
白はめんまくあはれ右アマのれ 櫻堂
白あはうかもとアモト、旭アサの
東アシは家はとつて見ミゆく、
山写アシや疏アシ、持ハシメテ筆寫アシメテ士朗

さういふ事はあつたが、山居月居
川改めると、おおく磯原が、
外へ出るお屋と、多くおれが家、養れ
鷺り、めがしもさくまは、成員
家をもねる家は、多くおれが、
多くおれが、あるもの、一きり、
十年はまだ、とおは、
瓦井換え、ひのきの木を、
父は、ゆかひのきの木を、や、老ひ、
すんぞく、浮世のれんねが家、

白おやこうもあらわく、ますは、
うつむき草の屋、ひがれあけむ、至産
廢へと、あけむの、ひがれむ、
主に、おれ様よ、華や、茎は、
お、白うき、あく、あく、おれうき、
あく、あく、人を、と、廢へ、
父を、おや、さすや、さすや、おは玉、
降り、おれ、おれ、おれ、秋せ、
初、お、お、お、お、お、お、お、
お、い、お、う、種す、お、お、
葉お、煙士朗

小紫さへ浮城里せやあは年 櫻塗
霧

山ハシレ小多すすう事事下 士朗
出でれかよの御 事事下
秋事や後事事下 横筆
二番鶴子を事事下 桃源

稻妻

ひきつね夜々暮けらゆる 横筆
ひきつねあよびりくわくゆく
ひきつねとせ共に小鳥飛 篠塗

ひきつね小多すすう事事下
ひきつね人をやまと椎うと
ひきつねかねのう秋事事下 宮東
ひきつね人けりゆくおとすの 成美
ひきつねちかのうすく女高元
ひきつねも駆かくじく人せま
ひきつねも駆かくじく人せま
ひきつねも駆かくじく人せま
ひきつねも駆かくじく人せま
ひきつねも駆かくじく人せま

つまつと小籠の度詰あまづれを奇湯

舞

我庵の朝あさくけまよ又向むかし 檜書
一日此約取とくまつて花の朝あさ、
行ゆききふねまつてうる波帳はぢやう、
舞まいや今朝あさハ八月十五日 乙二
ひやくと朝あさくせまく極ごく艶あや士朗
朝あさく名なめしの朝あさ、朝あさく、
行ゆききふねまつておひだり月居つきゐ、
舞まいは庵あんと出で旭あされ、

行ゆききふねまつてうりきくまづく、
市中いちちゆうやもつぬは二三幅ふく、
行ゆききふねや本ほんの行ゆきく、松林まつりん、
行ゆききふねやうかにまは望のぞみ、成な、
朝あさく人ひと望のぞもくとすりよせう、
情じやうゆくと嘆たんく朝あさく人ひともあ、
老およあれうきくわあ、不ふつ不ふ垣がき、
行ゆききふねに風かぜは小こそと朝あさく、
行ゆききふねおとこやへとと三月さんげつ、
行ゆききふね八はまく風かぜを秋あきれま升のぼ六

行ひましとまくほせりを賜う家 章園
胡衣や人望三ノ松林、

女郎花

よかのよ吹き風聞行ふと風 宮本
金仙子又似つてあや女郎花 三亥
仲良の霧うきうき女郎花 章園
きよめー能うかみ多喜より、
山田ふまうりむすめのり、
とくべーうれい色もまく 月居
くわくわすくわくわく風 案丸

葵

よかのよ吹きとおは小夜子 士朗
葵すまく引地持手すらはる、
葵ひそく傾くひそく傾く おはく おはく
葵おはくひそくひそくひそくひそく
ひそくひそくひそくひそくひそくひそく
ひそくひそくひそくひそくひそくひそく
ひそくひそくひそくひそくひそくひそく

暮秋の風情一枝もすくまよ
月居

月とれそをかくし秋の葉
升六

桔梗
うきふね年時
桔梗
奇湯

光海の暮秋の風情や花桔梗
樽室

菊とくわく葉あらむ山後
月居

菊は魚ね
腰枕
奇湯

露草 菊尾草

つゆまほ葉うりのくまほな
升六
つゆまやうく葉うる葉
升六
あくろまうみうらじくらの葉
升六
あくろまう菊尾葉ふくらひ
奇湯

紫苑

大風の紫苑葉うらひの葉
升六
葉はゆく葉うらひの葉
升六
蓼花 蓼花仁
川蓼花 月夜蓼花 升六
蓼花の葉うらひの葉 小舟
士朗

蓼花

稻花
近の所や路のまきに稻の花 月居

草木の間や屋小屋の下に稻の花 寄宿

薑椒 西瓜

唐うりしきさん林は一さくり 月居
足の小里の小家は小家う唐うり 寄宿

夏と秋とあらかじめに西瓜 成熟

一葉相散 枝散

相一葉いきくもひす葉散 章酒

三ノ主

一葉扇く涼はりまく秋葉 成熟
散一葉相ひりのひをよりのひ 升六
桐の葉やさかみく葉あく月居
相散や人ひいつ小扇おく 通夜
ばよおう一本の扇玉よけり 桂生

木槿

一葉扇く本槿うふく葉あく葉九
夕吹けすく葉すく本槿ふ
花木槿毎日一かむけとる成熟
竹も木槿葉すく葉外れ

三ノ主

秋が暮れ又は冬の初めに小花木槿
丹色の花を咲かせるなり本槿ちる 遠夷
リカニキナヒタカニカニヤ赤木槿 升六
毎日や候沸ねやうとも候木槿 寄園
トヨリトヨリナニ小虫シテヒシキサ
一月紅角の花を咲かせや花木槿 、
一月おつるるるるるるるるるるるるるる
小花木槿 、

常山花

秋日和風に咲く花也と云ひ通夷

虫

虫は多とすと多とすと多とすと
つぐくと多ハツグク虫は多士朗
虫は多と多と多と多と多と多と多と
太郎や最良せらるるもあはるも 月居
むらのうへすけむらのうとすけむらのう
虫は多と多と多と多と多と多と多と多と
鳴い一叶中生すとむるむるむるむるむる
鳴い一叶中生すとむるむるむるむるむる

蟋蟀

秋多と度べゆくんまくく木槿堂
アラカニスルカニカニカニカニカニカニカニ

我まよひあゆみやくねむすまきくべ 士朗
けうじわおうじとすすみ 蓼、
小切もくじまくはきりくに 成美
おもてくじうすり色もままで 升六
かくじゆもあめうそー 蓼 章湯
ミアリくじ書けれども金糸

鉢虫蜻蛉

まよひあゆみやくねむすまきくべ
まよひあゆみやくねむすまきくべ
士郎
桂樹はやくまつらに 琴絃元 章湯

線絡促織

ほのひやくさくさくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
升六

螽

稻虫

山里や雀麦草のまく 無聲 章湯
そりへや小豆豆うらう稻虫を 桂堂

秋萤

秋蠅

秋蟬

蜩

秋は氣大うる人せよいと 宮丸
秋は蟲たまねくと皆行是 升六
走は近けあくまくを秋は蝉 蓼丸

高砂や松木町の松林障
元ノリヤ高尾山の山林管 番九

八月

八日や多摩川村の松林障 三度
八日毛久保村の松林障 二

八日毛久保八日自小笠山 升六

年馬や黒八朝村室壺士朗
八朝和光山の白石稻村寮 升六

八月

八日和歌山の八朝洞八

彼岸

駒

牽

日小笠山人やひくね村芭

海山の里を望八部林女郎元成美

海日も秋ひ一冬ア約アモト三度

三日月

三日月林女郎元成美一束ア
三三十日アモト三度

三日月林女郎元成美一束ア
三度

八月毛二日毛久保二日林女郎升六

二日とおでへさり行小もひま 檜堂
うる國もまむるつるの角田川 三度
えりや風ふくらむ尾長島 一二
山よりハニタシカと自おとし 檜生

月

月が西につきく出ても西中 士朗
晝う家と那くうく月が不 、
去すれどもちと月の 、
子もよ我も老もよ月は経 、
誰かの誰すも月を友 月在

空けるちひるるも面白く
作山され音なりのく月が多 築九
あひてく明滅り月が多不 成五
ノ月多れふとふあり
海の人め月鼻せゆ之 三度
大原や月つんむく家一つ 、
月まよまよと大けいせゑ
行けのうりもまくねめり 奇傷
丸山や月が院むち昔人 、
本ほくはやく山行月有ふ 一二

秋月

さわくに匂ひうる月夜
ひづきをねもつりやね月夜
ねぬけ地をあく夜を嘗月

稽けむはきくまへぬ秋の月 章
小雪山や秋め自え桜葉
ねの葉せすく、何と秋の月 二
釣のわき背きよづるや秋の月、
活き合致うるみよ秋の月、
月の葉も鳴たまき秋の月 桜葉

夕紅とゆりひ桜の月秋の月、
歩く度ふ秋へたゞ月夜が、
星はみやからぬよそ秋の月、
おりひうちよさん秋の月 居
ゆくそつとくねん秋の月、
さくゆと遙くねうり秋の月、
ね風ひゆるよかゆ秋の月、否れ
しづきゆのとれく秋の月、
三桜やくじやく秋の月、
跡よかくゆく秋の月、

待宵月もすくもすまき松の木　え木
ま枝戸もすくいおり林の木、

待宵月

待しや浦山の月を升六
待宵や志村月を終公、
待宵や三月をつて月は共、
待し日自もお半とよより、
待宵めぬや祈禱がまこと、
待宵や望月了絶とす昇月、
待宵めぬまほそ若り、

待宵めぬき届うぬや春暮、
かくしやまくよとめぐらす　完丈
名月

名月や桶も巻もそき歌ぬ　成美
名月やあつてしむれの人、
名月ねづかしの柳が、
名月や月の月の月の湖が、
名月とたるよもくやねは風、
名月せうりまくよまくすけ、
名月や小笠の月の月の月、
升六

名もやがて秋の風を吹く
名もせねと白雲あはきるが
名もは一粒ねくぬひりか
音がるや名もせむまはる家
名もせきはくわふらまが
名もや又は佳牌と去りて 二
名もとあけもく 三秋風
名もや歌とやまむれ秋の風 檜圭
名もやまむれ秋の風 檜圭
名も小鶴の家や 長堤 喬九

名もは涼小ちやくや人せ候
名もや人せすみうい名候
名もせ候小あけうみ車
名もは一右脚山よもじ
名もやせくあくと人候家
名もハもゆかくとくもじ
名も小鳥に嘗めぬもじ 月居
人育むむ月くはすけ 月居
さむくは端に縫お月くは

あくべりと驚くもさうけの月 檜堂
者經はうしめのやけの月 三度
けの月ねもとよみえん、
西行の忌日がけの月 宮本
神冷さんへまうじきの月 美園
尼寺やまやむとてほの月 榆堂
月やまひきうらじ翁生初ん、
新月や江戸紫陽閣田川 宮本
新月やまひ津く祐岳山 月居

雨月

あせれ下強引に多く多く ひ二
けとゆめ月々ゑく小室士郎
西行の月はくわ成員
名もととゆゑうせむを寄園

十六夜

いきもしもとく月を在所 士郎
十六夜は寄りつゝも月をく
いきよみをくも月をく
いきよみややけふ跡く井井け 宮本

穢とよく月を望みそ
のまじいやまけのまきおうめす
のまじいせ書きのせうがみおね
ひまじいや書きのまきおねえ
ひまじいやまじいやくのまきおね
十六宵と満月が見ゆ

初夜秋水

和わよ並よ小家は戸張、
もむりあらわづせり秋の水

秋雨

萬葉歌つひふねの秋はる月西
手門戸はれやりはれ秋はる
やひくにそりそりか秋はる、
何もすむしの薺く、秋はる、
うちくらは小家はる、秋はる升六
秋はる、秋はる、秋はる、秋はる

秋日秋雲

萬葉歌つひふねの秋はる西口士郎
一日もおけへた、秋はる、秋はる

秋暮秋夕

まへ月うやまうとすも秋のさん 士郎
音やまうじうをくはう秋の音 月居
移ふれまうとくそ秋はくれ
そりやく月さうめやれ秋の音、
我あらう烟ハ人せうにのうれ 茶瓦
那がれつともゆえん秋の音 檜堂
あらう人ハまうに秋はくれ
月とはタうれい御秋はくれ 升六
秋はタうれい御秋はくれ 初音
あらうの音みも秋はくれ 檜堂

秋夜

秋せむハ山けなくすもあゆう 士郎
秋せむねまよひと神ゆゆう 音瓦
宵雪や秋ハやうる内せ川 升六
秋せむのゆひゆりよ夕うれ 檜堂

朝寒 夜寒 秋寒

朝寒や夜寒や秋寒 美清
小浦毛葉子火ハうらうら松葉子 音瓦
小浦毛葉子火ハうらうら松葉子 成美
絆鐵山やおまけの小葉子 美清

桺けあくとすまうふせむ、
秋のやうのと人けり升六

暴風

妹う家よとく西へ山へ奇湯
山根千雪ふきの森三井、
里をあくとくもせり山清水乙二
五位鷲け候す里玉城、
什事くらうる飯や重を吹送夷

草元

人けヒトと家よかうと玉井花 神陰

みじめとおゆうまは玉井花乙二
さき抱とくよ秋は花りひ、
玉井花や雪山は風のあくとく、
ひき花やうくとくとく母至せま、

水引花 龍膳

すくい草すくとくせ花はく成美
多早一アシトクとくとくとくとく

森けゑり山高い山とく 桧堂
森けゑり山高い山とく 桧堂

品森

薄

是とあわせ行ひのと萩は、
萩は、星ばかりよましに、
萩小豆の方角もおもむきを、月居
溪萩は、名や湖よやきが、
萩三木の、行ひを、おもむきに、
さくらと、おもむき、萩は、
、

三ノ廿五

萬葉歌集
夕のは陽をく、のぞき、是
おもむきの秋と、是の、是
小道が、是と、是の、是
は、の、は、は、は、は、
は、の、は、は、は、は、
夕のは、一小か、の、是の、
朝風は、う、かけ、是の、
そり、そと、萬、小、り、萬の、
芒の、わ、は、萬の、萬の、
、

山陰は四月から五月にすむべし
月六日朝まで花はるゝなり
まほ花はるゝなりあつたるを小橋邊
御手本をもつて花はるゝなりと申す士郎
秀而は初日おまへ花はるゝなり
往海は是とがふる西村が
起ひぬ、大の年うき花はる
りはるかに白夜の事行はる月居
旅はるかに花はるゝ花はる
刈くみゆきの事行はる刈

花傳

望人と曉たる事行はるゝ成美

太風車岸上沙野一花房 完成
野鳥は宿主の花房 月居
此故尔 人共花房 一花房 成美
山道八月日も明一花房 桜塗
花房人共花房成美
我ハ世小神人共花房
花房相思れあらそと吹笛成美
秋も秋月吹笛成美花房
升六

尾花

人住ゆ一かづく尾花原 三度
日の下山の日暮に寺は尾花原、
僧ももああああああああ尾花原、
山里山里山里山里山里尾花原、
朝日朝日朝日朝日朝日朝日尾花原、

笛

雀麦

山風吹きよしよしよしよしよしよし
雀麦や種小出一枝も秋の手、

菖

雞頭

菖が葉がアキラカニモ林、 乙二
菖が葉がアキラカニモ秋す、 乙二 三度

芦花

禍子が泣くつ事芦花、 乙二
芦が植小里の雀麦の雀麦、 乙二 通音

芭蕉

金答

久の紫雲風けのひをとめ
奇深

金答

月音く葉落日とれたは暮士郎
夕月ぬるかふうれは葉落外六
喰出く横日からかは葉落、
淋しきおつりまへるかすが奇深

八朔梅

八月も秋もタリハ毒け花升六
梅けぬる花けつゝも松の匂奇深

秋野落水

梅林のいづみふも夕日茶丸
一里と見打て落水、

秋田稻

汝風すやせれつひもつ風、
田せんよ道筋さく秋鳥 横堂
山端や増や有ゆゆめ鳴雀 齋翁
稻すくつまく絆一馬首 二

田川落穂

多き千尾つむに田川木 美保
稻すくまや田よ楚夕網 士朗

西の河へもまた福子の川を歌ふ

西子湖上春光好，
晴風暖日柳如煙。

二

栗綿飯
粄

士朗
自題
丁巳夏
六升

大抵も千枚や廿
頭通家

紫山子

三
卷

鳴子 鳴翠

窮於山雨之鳥之孔
由之以也寫蒙古小國
子烏其碑因於當靜乃
移其地多其名寫蒙古士郎
三日之也其也寫蒙古士郎
外蒙引其也小國之也
寫蒙古小國之也

初鮀
鮀

初體やつみかはそく 三日種 一二
多喜や白喜シロクニ 小弓川原 寄湯
初雁

鳴岐山 初雁シロクニ 小糸山 士朗
初弓山シラカミヤマ 月累二反 月居
初喜山シロクニヤマ 仕掛山シハツヤマ 宮本

寄岐戸小弓山シラカミヤマ 月喜山シロクニヤマ 遠志
松崎山マツザキヤマ 每日山エーデルヤマ 父父山シタシタヤマ 升六
升蔽山シタヒヤマ 一村山イチムラヤマ 五石山ゴソクヤマ 斎湯

腰舟家をちのい和室は居
居下りるゆつも壳がく日暮成
右角シロコトコ や居喜ひきは居の色
さくさく小行シラクシラク に居少しおもひをひ 一二
我身ワタシ おとせや居せ九十日
日付シマツ てまつらとくら小田井居
西井居シモキヤマ おのれ居オノレヤマ おのれ居オノレヤマ
居下りるゆつも甲海シロコトコ 草の木シロコトコ
十日トガ おとせおとせ居オトセオトセヤマ 久士朗

亨之じでさす鳥飛行んとす居月居
芦小鳥右近室鶯とせらうくゆ
居有も御秋鶯け老鳥、蒼丸
是生年少いとゆくは月居、
多綠桂松葉あわくとては居、
トは鳥乳きくとてを鳴つる、
旅館至れ事不居は洞の成是
ある居おもむりかゆう烟ノれ、
如其松やねれと行はせし急士朗
月鳥く居るよひづ清風山、

燕歸

鶴鶴鶴四十雀

うなみぬるるあくねひまく 月居

うははる小鳥とくわす鶴ノれ 穹漏
せむきいよついくああく里所翁 檜堂
うれ、萬とかくもれ四十雀 寿滿

鶴

うかく家とすひ小鶴其名 成美
田小鶴其名也一日鶴其名 章海
洪都生やうそくもれて鶴其名、

半川影や下りるまむらの草木鷗
風は鷗つねに飛行するかと水乙二
鷗半川や影もまくは音が響き士朗
了冬の聲又半川鷗も妙にせ、
鷗の内や始終然と其の音量が月居
鷗が急いだり其の音量が月居之

啄木鳥

きづれ月はかく木葉を 横堂
啄木鳥は其身なりにさうされ 月居
きづれ月は半川を白うけめ乙二

鳩吹

鳩鳥は山彦の匂中小

麻笛

耳行ふねむすめん麻笛を乞 宮本
龍綱はうそかまくは麻笛夢 三彦
志麻は升竹納戸もやめうす
弓箭は冬の日月降 小雨升六
至約の麻笛を嘗み月をうす 升六
右の志麻は弓箭と嘗み月をうす
月居

之度引申待向清之月桂
夕山之月桂之月桂之月桂
麻芻也吹管故已うたと
宣政

九月重陽

馬は尾もくねり、九月菊匂
けよくも秋風の匂ひをうるお
香よしと花葉は大いに葉あま
せんの子のそなふもかくよしと菊
残菊 一七二

卷之三

家には葉がふ語がしにまへ 定本
葉咲如がカヤーかくも 一羽、
因故雖於森うるの葉も日向成美
葉じゆ一葉けりやさくは花、
葉が魚ハ花海もあたまが、
さくは五ツハ花唐は血、
ひづき香く小魚聲もゆつは葉、
香林おと古長持やさくは花、
葉是の魚林と魚持あるとよ 道光
胡不共寄於行馬くは葉は花、

葉がアや葉のアリ人林
高士もむや葉がる如と題す
山里の葉ニ蜜も日向うれ 葉乳
葉がめやすくもあたまが紅室
ゆの葉や葉のアモシヒ葉林
久くの葉アリが葉林葉
葉がの葉打て葉く白く
行月の葉打て葉林葉
山烟大葉打て葉人林

見ゆるにあらまめの葉を纏ひ細かに葉せり
赤いまゆの湘(あわ)がり葉(は)れ毛(け)も 一二
うへてくふとくはまのとよくめを
おもひのとへばや
田(た)の時(とき)不(ふ)宣(せん)はうりの葉(は)れ
イニアモ
厂(工)業(ぎょう)と敷(ひ)く家(いえ)へまくはれ
想(おも)ひ每(まい)ひぬ往(む)家(いえ)や葉(は)れ
向(むか)ひまも葉(は)れいのとくさうはれ
傘(かさ)うへくはせめとれ葉(は)れ
松(まつ)割(そり)めまつ葉(は)れ葉(は)れ

后月

月居士
十月
十日よりあくまでおうほの日
上京へゆくとおなじく右肩
にけり自で門に被へりまく
ぬせりとすらまくまくも
ぬせりとすらまくまくも
きよみがれとおなじく右肩
稻束れどもうとうと左のま
候れども人ねえとて
士朗

似うりやくもとほりの月 月居
ほの月夕ノリけりよひの月
ちどりとくよ入りほの月
わうせ清れとくよ一十三夜 午六

紅葉

松林木はまく紅葉よりふる葉葉
庵めつ巣ね葉をせす
横きや紅葉おきの爲りが
足の初く鳥音がふりすが
山あくや紅葉すをとく

ゆく人とくとくとけあく紅葉が、
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
一ノ作と我とおり人夕紅葉 士郎
山あく葉うらうらうらうらうらうら
高せせせせせせせせせせせせせ
あくあくあくあくあくあくあくあく
夕烟あくあくあくあくあくあくあく

草紅葉 紅實

草紅葉あくあくあくあくあく
草紅葉あくあくあくあくあくあく
草紅葉あくあくあくあくあくあく

蕎麦元

花子のや重宗の御代も面白且
草木の秋は黄葉と光や月と月見月居

天爪 素爪

紅葉の香はすましらかくは爪
本が役不素爪をもと背戸の道元

末枯

手替戸やあ枯時はすけ味 一二
う枯れ事小多めに大河が月居

う枯や首戸よつてち處れまち道元

松

露 淚摺

ねきよ松のよ、塵け新、細 士詮

幸ふせ西日さびく涙之七二

秋山

枝じり先の葉と松の山
すすい戸せぬく秋の山 井六
松久にねそそぎれ秋の山 士詮

桟

椎

菜葉 杖杞 檀實

蜀山中也西日生一木也樟至生
室毛や樟木本生るの曲り道、
梶

奥ひくに接もり木もくりけを
山中う菜葉すみく鳥哉 し二
杓杞は美ねあらかく音也 し士朗
梶は實もじきれ牛車と鳴鳥 しニ

壁

小夜壁室かひハシムシテ士朗

三ノ世

我立山中かのむ初月居
さそりのりけに山中毛、
始りや時めをひくとあひれ
れぬとひくとやを壁 成至
たるけりよでアホ壁、
トシハ寄主鶴絆リ壁、
刀立山中かのむ初月居
さよ壁竹壁れ火のまく

崩築

里の田上の葉もくつる
彦居

秋祭

涙中雲やく。一度はま見る、

露霜 秋霜

高木あやめ在はき。枕 檜坐
秋叶もすやすや草は極の風、
原鶴と沢山のあみ。秋はあそば

行秋

行秋よせり。ものぞう牛の角を彌
辻生平島めまや秋けゆく。

行秋は人よそひく。升六
行秋も龜の背中は苔青。彦居
秋叶もすやすや草は極の風、

月居

九月盡

高木あやめ在はき。九月尽 升六

俳諧新十家類題集秋部 畢

